

朝日町 和合農村地域を守る会



女性が関わり地域を変える

菅井会長から地域の農業用施設の役割と管理方法を聞く菜美さんと妙さん

強い思いで説得して組織の役員に

みはしたえ

なみ

三橋妙さん、佐藤菜美さんは、地元に戻って果樹農家となり、育成会の代表として、子どもたちの活動に携わってきた。子どもたちのために奔走する姿を見た菅井会長は、「地域のために、組織役員として力を貸してほしい」と約1年かけてふたたりを説得した。構成員として活動に関わってきたふたたりにとって、組織役員は荷が重かったが、ふたり一緒であれば、と引き受けることにした。「子どもたちが、りんご畑に触れる機会をつくりたい」というふたりの提案は、子どもと一緒に活動できる喜びに繋がっている。和合の農業を子どもたちに伝える活動が始まった。

遊休農地を活用して植付け収穫体験

ふたりは、育成会で関わってきた経験を活かし、地域の大人と子どもたちが触れ合える企画を運営している。

令和4年度は、地域の資源を活かす活動として、遊休農地を活用したサツマイモの植付け収穫体験を実施した。組織の活動の場が広がり、若い世代の住民が参加できるものとなった。



和合農村地域を守る会

多面的機能支払交付金の交付を受け、地域の農業や環境を守る活動を実践している活動組織。農地の多くは、りんご畑。農地を維持するため、水路、農道、ため池の点検、清掃、補修などを行っている。

蜜は完熟の証 『無袋ふじ』

朝日町和合地区は、『無袋(むたい)ふじ』発祥の地。

太陽の光をいっぱい浴びたりんごは蜜がたっぷり。袋をかけて栽培するのが主流だった昭和 40 年ごろ、朝日町の生産組織・農協・町が一体となり、袋をかけずに栽培する技術体系を確立した。

『無袋ふじ』は蜜入りりんごとして市場評価が高まり、町の農業構造を変えた。この生産技術は、広く全国に広まり、他の産地のものは『サンフジ』として生産、販売されている。



(左から)菜美さん、妙さん、平事務局長、菅井会長



組織は、取水口から農地まで 4 km 程の水路を管理している

和合地域の用水は、ほとんどが雨水頼り。大切な水をいかにして確保しているか、水路の点検に同行し、ふたりは改めて知ることができたという。



地域の関心が高まり、参加者が増えた植栽活動

地域活動継続の力ぎは後継者育成

子育てに忙しいふたりの状況を理解して、菅井会長と平事務局長は、活動の土台作りをフォローしている。菅井会長は、「役員として無理のない環境を整えること」で、組織・地域の後継者を育成したい」と考えている。ふたりが役員に加わってから、組織が行ってきた地域の財産を守り維持する活動について、地域の方々の関心は高まっている。活動の継続には、地域の理解と協力を得ていくことが欠かせない。菅井会長は、地域をまとめる存在に、とふたりの成長に期待を寄せている。

多面的機能支払交付金についてのお問合せはこちら☎

村山総合支庁農村計画課 TEL023-321-8164 最上総合支庁農村計画課 TEL0233-29-1342
置賜総合支庁農村計画課 TEL0238-35-9055 庄内総合支庁農村計画課 TEL0235-66-5554
県庁農村計画課 農村保全担当 TEL023-630-3189